



東京都  
ニュー末広ビル歯科

坂口 智哉  
先生

今回のアイテム

# ライフ／水酸化カルシウム系裏装材

## 積極的、消極的覆罩材の使用法

### ライフ／水酸化カルシウム系裏装材

近年、覆罩材を使用する歯科医師は少なくなっていると思います。

その理由として、水酸化カルシウムを主成分とする覆罩材はボンディング材、レジンセメント等と接着しないという事が大きな理由と考えられます。

また、デンティンボンディング材など飛躍的に進化を続け、我々、歯科医師が信頼して使えるようになった為、直接象牙質にレジジン(プライマー)でシールしてしまう事が、使用頻度が少なくなつた原因の一つであると考えられます。

しかし、私は近年、覆罩材を多用しています。その多用している多くの目的は歯髄保護ではありません。

我々、歯科医師は、カリエスを除去した後、細菌感染している軟化象牙質を全て除去するという教育を受けていますが、実際の臨床ではどこまでが軟化象牙質なのか分からないのが実状で、染め出し(カリエスチェック)等を使用する先生は多いと思



います。

#### 【積極的使用法】

私の臨床では、目で見える軟化象牙質はできるだけインスツルメントで除去後、窩洞をライフで処理します。

露髄部は2週間ほどでデンティンブリッジが形成されます。または健全象牙質は硬くなっており、そこでライフを除去します。除去しきれなかった軟化象牙質の下部象牙質はカリカリの状態になってるので、染め出しを行い、そこで柔らかい軟化象牙質を完全に除去してセルフエッチプライマーで処理を施します。

#### 【消極的使用法】

露髄している前歯など積極的にデンティンブリッジを形成させると、歯髄面積の少ない前歯は更に歯髄面積が少なくなり、血流が悪くなり壊死することがありますので大きく露髄したケースは使わず、ピンクスポット部など少量使用することをお勧め致します。

## 限られた時間で効率的なメタル除去

### ブルーホワイトカーバイドバーリムーバル用

臨床に携わる歯科医師として公言して良いかどうか悩むところですが、メタル除去が苦手です。クラウンはまだしもインレーや特にメタルコアの除去が非常に苦手です。

しかしブルーホワイトカーバイドバーと出会ってからは、その苦手意識も少し薄らいできた様に思えます。

すぐに切れ味が鈍くなる除去用バーでメタルを削り、悪戦苦闘しながら強い衝撃を患者さんに与え続け、刃部の付け根から折れるという事を繰り返してきました。

エアターピンではトルクが足りず、5倍速コントラを用意しようかと思つた事もありました。「限られた時間の中で効率よく除去する事ができない」これが苦手の本質でした。なぜ苦手なのかを考えていくうち、ブルーホワイトカーバイドバーのメリットが見えてきたので、列記していきます。

- ・切れ味が良く、切れ味が落ちにくい
- ・良く切れる為、振動が少ない



- ・刃部の付け根が折れにくい
- ・バーの寿命が長い為、結果的にコストが安い

切削面に対して45度程度の角度をつけてバーの先端を当てると、ほとんど振動も無くフェザータッチでスムーズにメタルが削れますが、切削面との角度が平行に近づくと刃部の後方(根元付近)が接触しはじめ、引っ掛かるような強い衝撃が時折発生しますので注意が必要です。

バーの切れ味が良いので、無理に5倍速コントラを用意しようとは思いませんが、有った方が安心して除去を進められるかと思えます。